

研究資料

高隈演習林における鳥類相の記録 (1960~2013年)

—日本野鳥の会鹿児島による探鳥会と近年の研究報告から—

芦原 誠一

Avifauna at the Takakuma Experimental Forest, Kagoshima University

—The survey results from 1960 to 2013—

ASHIHARA Seiichi

鹿児島大学農学部附属高隈演習林 〒891-2101 鹿児島県垂水市海潟3237

University Forests, Faculty of Agriculture, Kagoshima University, Kaigata 3237, Tarumizu 891-2101, Japan

I. はじめに

高隈演習林における鳥類相についての記録は、『鹿児島大学農学部演習林報告第5号』（迫ら1977）と、『鹿児島県の野鳥』（鹿児島県1987）がある。また近年のものとして、日本鳥学会誌に発表された報告（平田ら2009）と、自動撮影カメラによる観察の報告（平田・芦原ら2009）がある。ところで、公益財団法人日本野鳥の会に属する日本野鳥の会鹿児島（以下、野鳥の会鹿児島と表記）は、県内に約360名の会員を擁し、野鳥観察会や写真展などの活動を行っている。1999年からは高隈演習林において探鳥会を実施しており、その記録は支部報「るりかけす」にまとめられている。今回、高隈演習林の鳥類相の記録を拡充する目的で、野鳥の会鹿児島に記録の提供をお願いしたところ快諾をいただくことができた。

そこで本報告では、野鳥の会鹿児島による、高隈演習林における探鳥会の記録を報告し、さらに近年の野鳥関連の研究報告を加えて、1960年から2013年までに高隈演習林で確認された鳥類相のリストを作成して公表する。

II. 探鳥会の記録

1. 調査地と調査方法

探鳥会の対象地は、鹿児島県垂水市の高峠公園（標高550m）に隣接する高隈演習林の南端部の林道沿いである（図1）。野鳥の会鹿児島の会員と一般参加者が、朝9時ごろから2時間程度、調査区間において徒歩による観察を行い、目視や鳴き声から識別した野鳥の種類と個体数を記録するラインセンサス方式で調査を行っている。探鳥会の終了後

に、識別した野鳥の種類と個体数を参加者全員で再確認し（いわゆる「とりあわせ」）、支部報「るりかけす」に発表している。高隈演習林での探鳥会は1999年から2013年までのあいだに8回が企画され、雨天中止の2回を除いた6回が実施された。

調査日時と区間は次のとおりである。1999年11月14日（9:00~11:30）は、高峠公園駐車場から寄宿舍林道を経由して冷水谷湧水池へ、さらに長谷林道を申良川沿いに下って県道71号垂水南之郷線と合流する地点までの区間を片道（全長5,300m）で行った。2001年4月8日（9:00~11:30）、2005年5月8日（9:30~11:30）、2011年7月17日（8:00~11:30）、2012年5月27日（8:00~11:30）、2013年5月26日（8:00~11:30）の5回は、高峠公園駐車場から寄宿舍林道を経由して冷水谷湧水池までの区間を往復（全長3,220m）して行った。なお、2004年5月9日と2011年5月29日に予定していた探鳥会は雨により中止された。

2. 探鳥会の結果

表1に探鳥会の結果を示す。野鳥を目視できた場合には○印もしくは羽数を、また、鳴き声が確認できた場合には“声”と表記している。全6回の探鳥会で、確認された総種数は40種、探鳥会ごとでは17~23種の野鳥が確認された。

探鳥会で確認された種のうち、『鹿児島大学農学部演習林報告第5号』と、『鹿児島県の野鳥』には記載されておらず、今回新たに確認されたのは、クマタカ、サンショウクイ、エナガ、カワラヒワ、カケス、ミヤマガラスの6種であった。しかし、サンショウクイ、エナガ、カワラヒワ、カケスの4種については、それぞれ、リュウキュウサンショウクイ、キュウシュウエナガ、コカワラヒワ、ヒュウガカ

ケスが過去に記録されていることから、さらに正確な観察と種の同定が必要と思われる。

Ⅲ. その他の記録

高隈演習林の鳥類相の記録は、探鳥会のほかに、平田ら(2009)や平田・芦原ら(2009)の報告がある。ひとつは、果実食性鳥類の種子散布について研究する目的で、高隈演習林4林班で行われた捕獲調査の結果(2004~2006年)である。もうひとつの報告は、野生鳥獣の生息状況を調査するために2007年から高隈演習林8林班の冷水谷湧水池に演習林が設置している、自動撮影カメラによる鳥類の撮影結果(2007~2008年)である。これらの調査結果をまとめたものを表2に示す。確認された総種数は23種だった。これらの調査では、旅鳥のアカハラダカと、外来種のソウシチョウが初めて確認された。

Ⅳ. まとめ

『演習林報告第5号』に記載されている鳥類相リストに、今回示した探鳥会の結果と、平田らによる2編の研究報告、さらに『鹿児島県の野鳥』に記載されている種を加えて、確認された年ごとに整理したものを表3に示す。なお、『鹿児島県の野鳥』では、観察場所についての表記が一定しておらずに様々に記載されていた。したがって、観察された場所として「高隈演習林」「高峠」「堀切」と記載されている種のみを「高隈演習林の鳥類相」とみなして集計した。

その結果、これまでに高隈演習林で確認された鳥類は83種から15種増加して98種類となった。観察時期や場所、観察方法がそれぞれ異なるものの、50年余りにわたる期間の記録を統合できたことで、本報告は森林管理や教育・研究のためのデータベースとして有用な資料になったと思われる。確認された種類の特徴、種数や内容の変化などについての分析は今後の課題としたい。

謝辞

本報告書は、日本野鳥の会鹿児島のご厚意により作成することができました。貴重なデータをご提供いただき、感謝を申し上げます。また、報告書の作成にあたっては鹿児島大学農学部森林保護研究室の曾根晃一教授にご指導をいただきました。ありがとうございました。

参考文献

迫 静男・楠本敬憲・横山英治(1977) 高隈演習林の鳥類

相. 鹿児島大学農学部演習林報告第5号: 1-32

鹿児島県(1987) 鹿児島県の野鳥

平田玲子・畑 邦彦・曾根晃一(2009) 果実食性鳥類の糞の分析と針葉樹人工林への種子散布. 日本鳥学会誌 58(2): 187-191

平田玲子・芦原誠一・畑 邦彦・曾根晃一(2009) 森林性鳥類による湧水池の利用状況. 森林学会九州支部会. 口頭発表



図1 探鳥会のルート

表1 日本野鳥の会鹿児島による探鳥会の記録

探鳥会	年	1999	2001	2005	2011	2012	2013	
	月	11	4	5	7	5	5	
	日	14	8	8	17	27	26	
	時間	9:00~11:30	9:00~11:30	9:30~11:30	8:00~11:30	8:00~11:30	8:00~11:30	
	場所	高峠から長谷林道へ 高峠から冷水谷湧水池までの往復						
	天気	晴れ	雨	晴れ	曇り	晴れ	晴れ	
	参加者数	16	13	29	30	36	23	
No.	鳥種	出現(鳴き声)・羽数						
1	トビ	○	○	1	3	4	4	
2	ハイタカ					♀1		
3	サシバ		○					
4	クマタカ	○					2	
5	チョウゲンボウ	○						
6	コジュケイ			3	1(声)			
7	キジ		○声			♂1		
8	キジバト	○	○		4	2	4	
9	カッコウ					1		
10	ホトトギス				2	1	1	
11	ツツドリ					1(声)		
12	アカシヨウビン			5			1(声)	
13	アオゲラ		○声			1	ドラミング1	
14	コゲラ	○		3	1	1	1	
15	ツバメ					3		
16	キセキレイ	○						
17	サンシヨウクイ	○		3		4	1(声)	
18	ヒヨドリ	○	○	2	2	3	10+	
19	モズ		○	1				
20	コルリ		○声					
21	トラツグミ		○					
22	ヤブサメ	○声	○声	2		3(声)	5(声)	
23	ウグイス	○声	○声	8	9	10+	10+(声)	
24	センダイムシクイ		○声					
25	キビタキ	○						
26	オオルリ			1	♂1	1	1(声)	
27	エナガ	○	○				1	
28	ヤマガラ	○	○	5	1(声)	10+		
29	シジュウカラ	○	○	2	1	10+	3(声)	
30	メジロ			1	3	2		
31	ホオジロ	○	○	4	4	7	10+	
32	アオジ		○声					
33	カワラヒワ		○	5	1	9	10+	
34	イカル			2	2(声)	1	1	
35	スズメ		○	3	7		10+	
36	ムクドリ		○	1				
37	カケス					1	1(声)	
38	ハシボソガラス		○	4	5			
39	ハシブトガラス	○	○	3	2	3	5	
40	ミヤマガラス	○						
	出現種数	総計40種	17	22	20	17	23	20

表2 平田らによる鳥類の記録

自動撮影カメラ		年	2004	2005		2006		2007	2008
		月	秋冬	春夏	秋冬	秋冬		10-12月	1-11月
		場所	高隈演習林4林班					冷水谷湧水池	
No.	鳥種		捕獲数 *1					出現回数 *2	
1	アカハラダカ								1
2	ハイタカ							1	1
3	ヤマドリ								1
4	キジバト							6	17
5	フクロウ								1
6	コゲラ		1						
7	キセキレイ								2
8	セグロセキレイ								1
9	ヒヨドリ							3	10
10	ルリビタキ		3						6
11	アカハラ								1
12	シロハラ		3		1			20	19
13	マミチャジナイ		1					1	
14	ヤブサメ								3
15	ウグイス		1	2					
16	キビタキ			1					7
17	オオルリ								5
18	エナガ		3	1	2	2			
19	ヤマガラ			2	2	7			5
20	シジュウカラ		1	1	1				
21	メジロ				2	3			
22	カケス			2					6
23	ソウシチョウ		1						
	出現種数	総計23種	8	6	5	3		5	16

*1：平田ら2009

*2：平田・芦原ら2009

表3 高隈演習林における鳥類相 (1960~2013年)

No	目	科	亜科	和名	年	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	
1	ガンカモ	ガンカモ		オシドリ																			
2	カルガモ	ガンカモ		カルガモ																	○		
3	ワシタカ	ワシタカ		ミサゴ														○					
4	ワシタカ	ワシタカ		トビ																			
5	ワシタカ	ワシタカ		アカハラダカ																			
6	ワシタカ	ワシタカ		ハイタカ																○	○		
7	ワシタカ	ワシタカ		ノスリ																○	○		
8	ワシタカ	ワシタカ		サシバ						◎		◎											
9	ワシタカ	ワシタカ		クマタカ																			
10	ワシタカ	ハヤブサ		チョウゲンボウ																	○	○	
11	キジ	キジ		ウズラ						◎	◎		◎										
12	キジ	キジ		コジュケイ																			
13	キジ	キジ		ヤマドリ (コシジロ)		◎												◎	◎				
14	キジ	キジ		キジ																			
15	キジ	キジ		キュウシュウキジ																			
16	ツル	クイナ		バン																			
17	ツル	シギ		ヤマシギ																			
18	チドリ	カモメ		クロアジサシ								◎											
19	チドリ	カモメ		セグロアジサシ								◎											
20	ハト	ハト		キジバト																			
21	ハト	ハト		アオバト																			
22	ホトトギス	ホトトギス		カッコウ																	○		
23	ホトトギス	ホトトギス		ホトトギス																			
24	ホトトギス	ホトトギス		ツツドリ																			
25	フクロウ	フクロウ		アオバズク									○										
26	フクロウ	フクロウ		フクロウ																			
27	フクロウ	フクロウ		キュウシュウフクロウ																			
28	ヨタカ	ヨタカ		ヨタカ		◎																	
29	ブッポウソウ	カワセミ		アカショウビン																			
30	ブッポウソウ	カワセミ		カワセミ																			
31	ブッポウソウ	ブッポウソウ		ブッポウソウ																		○	
32	キツツキ	キツツキ		アオゲラ								◎									◎		
33	キツツキ	キツツキ		オオアカゲラ					◎	◎		◎											
34	キツツキ	キツツキ		コゲラ																			
35	キツツキ	キツツキ		カゴシマアオゲラ																			
36	キツツキ	キツツキ		ナミエオオアカゲラ																			
37	キツツキ	キツツキ		キュウシュウコゲラ																			
38	スズメ	ヒバリ		ヒバリ																			
39	スズメ	ツバメ		ツバメ								○	○									○	
40	スズメ	セキレイ		キセキレイ																		○	
41	スズメ	セキレイ		セグロセキレイ																		○	
42	スズメ	サンショウクイ		サンショウクイ																			
43	スズメ	サンショウクイ		リュウキュウサンショウクイ																			
44	スズメ	ヒヨドリ		ヒヨドリ																			
45	スズメ	モズ		モズ																		○	○
46	スズメ	レンジャク		キレンジャク									○										
47	スズメ	レンジャク		ヒレンジャク									○										
48	スズメ	カワガラス		カワガラス																		○	
49	スズメ	ミソサザイ		ミソサザイ								◎	◎										
50	スズメ	ヒタキ	ツグミ	コマドリ																		○	○
51	スズメ	ヒタキ	ツグミ	コルリ																		○	

出典：○：「演習林報告第5号」(迫ら1977)。調査年は1974-1976年。

◎：「鹿児島県の野鳥」(鹿児島県1987)より抜粋。高峠と堀切以外の「演習林付近」を除いた場所で確認されたもの。

△：「果実食性鳥類の糞の分析と針葉樹人工林への種子散布」日本鳥学会誌(平田ら2009)。高隈演習林4林班。

▲：「森林性鳥類による湧水池の利用状況」(平田ら2009)。高隈演習林8林班。

●：日本野鳥の会鹿児島による探鳥会(1999~2013年)の記録。

No	目	科	亜科	和名	年	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	
52	スズメ	ヒタキ	ツグミ	ルリビタキ																	○	○	
53	スズメ	ヒタキ	ツグミ	ジョウビタキ																			
54	スズメ	ヒタキ	ツグミ	マミジロ																	○		
55	スズメ	ヒタキ	ツグミ	トラツグミ							◎										○		
56	スズメ	ヒタキ	ツグミ	アカハラ																	○		
57	スズメ	ヒタキ	ツグミ	シロハラ																			
58	スズメ	ヒタキ	ツグミ	マミチャジナイ																	○		
59	スズメ	ヒタキ	ツグミ	ツグミ																			
60	スズメ	ヒタキ	ウグイス	ヤブサメ																	○	○	
61	スズメ	ヒタキ	ウグイス	ウグイス																			
62	スズメ	ヒタキ	ウグイス	センダイムシクイ																			
63	スズメ	ヒタキ	ウグイス	キクイタダキ																			
64	スズメ	ヒタキ	ウグイス	セッカ																			
65	スズメ	ヒタキ	ヒタキ	キビタキ																			
66	スズメ	ヒタキ	ヒタキ	オオルリ																			
67	スズメ	ヒタキ	ヒタキ	エゾビタキ																			
68	スズメ	ヒタキ	ヒタキ	コサメビタキ													○				○		
69	スズメ	ヒタキ	カササギビタキ	サンコウチョウ																			
70	スズメ	エナガ		エナガ																			
71	スズメ	エナガ		キュウシュウエナガ																			
72	スズメ	シジュウカラ		ヒガラ						○	○												
73	スズメ	シジュウカラ		ヤマガラ																			
74	スズメ	シジュウカラ		シジュウカラ																			
75	スズメ	メジロ		メジロ																			
76	スズメ	ホオジロ		ホオジロ																			
77	スズメ	ホオジロ		ホオアカ																	○		
78	スズメ	ホオジロ		カシラダカ																			
79	スズメ	ホオジロ		ミヤマホオジロ																			
80	スズメ	ホオジロ		ノジコ																			
81	スズメ	ホオジロ		アオジ																			
82	スズメ	ホオジロ		クロジ																			
83	スズメ	アトリ		アトリ																		○	
84	スズメ	アトリ		カワラヒワ																			
85	スズメ	アトリ		コカワラヒワ																			
86	スズメ	アトリ		マヒワ																		○	○
87	スズメ	アトリ		ウソ																			
88	スズメ	アトリ		イカル																			
89	スズメ	アトリ		シメ																			
90	スズメ	ハタオドリ		スズメ																			
91	スズメ	ムクドリ		コムクドリ																			
92	スズメ	ムクドリ		ムクドリ																		○	
93	スズメ	カラス		ヒユウガカケス																			
94	スズメ	カラス		カケス																			
95	スズメ	カラス		ハシボソガラス																			
96	スズメ	カラス		ハシブトガラス																			
97	スズメ	カラス		ミヤマガラス																			
98	スズメ			ソウシチョウ																			

出典：○：「演習林報告第5号」（迫ら1977）。調査年は1974-1976年。
 ◎：「鹿児島県の野鳥」（鹿児島県1987）より抜粋。高峠と堀切以外の「演習林付近」を除いた場所で確認されたもの。
 △：「果実食性鳥類の糞の分析と針葉樹人工林への種子散布」日本鳥学会誌（平田ら2009）。高隈演習林4林班。
 ▲：「森林性鳥類による湧水池の利用状況」（平田ら2009）。高隈演習林8林班。
 ●：日本野鳥の会鹿児島による探鳥会（1999～2013年）の記録。

